

IAUD Newsletter vol.13 第5号(2020年8月号)

1. CM 字幕PJ「ユニバーサル社会を創造する事務次官プロジェクト」出席報告……………1
2. IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介⑥……………4
3. IAUD 8月の予定……………9

だれもが同じ情報を得られる社会を目指して

活動報告:CM 字幕PJ「ユニバーサル社会を創造する事務次官プロジェクト」出席



勉強会「ユニバーサル社会を創造する事務次官プロジェクト」の様子。写真左手前が主催者の竹中氏

CM 字幕の普及を目的に活動している IAUD 研究部会 CM 字幕プロジェクトは、7月8日(水)に農林水産省特別会議室(東京・霞が関)で開催された勉強会「ユニバーサル社会を創造する事務次官プロジェクト」に出席し、字幕付き CM 普及に向けたこれまでの活動について報告しました。

当日は省庁の方々に字幕付き CM の現状や多くの課題を認識していただき、今後の字幕付き CM の普及活動に大きなプラスとなりました。

今号の Newsletter では、当日の様子を同プロジェクトの土屋亮介副主査が報告します。

省庁横断勉強会 テーマは「字幕付き CM」

「ユニバーサル社会を創造する事務次官プロジェクト」は、社会福祉法人プロップ・ステーション理事長の竹中ナミ氏が主宰している省庁横断の勉強会です。

毎月一回、内閣府、財務省、経済産業省、総務省、厚生労働省、国土交通省、文部科学省、防衛省、農林水産省、環境省の10省から事務次官らが出席し、テーマを決めて昼食時に集まり情報交換を行っています。

7月度のテーマは「字幕付きCM」。今回は各省庁から事務次官や部長の方々をはじめ、公益社団法人日本アドバイザーズ協会(以下JAA)、(株)ニューメディア出版局長の吉井勇氏、当プロジェクトのメンバー4名が出席しました。

会議は竹中氏の進行で始まり、当プロジェクトとJAAから字幕付きCMの現状と今後について報告し、その後出席者からの感想と意見交換、の順に進みました。

テレビCM字幕付与率はわずか0.3%

まずは当プロジェクトの松森果林副主査より「誰もが同じ情報を得られる社会を目指して」と題して、字幕付きCM普及に向けたこれまでの活動を報告しました。

初めに、出席者に実際のCMを「音声なし・字幕なし」と「音声あり・字幕あり」で見てもらい、いかに情報格差が生まれているかを体験していただきました。

その後、字幕付きCMの現状を説明しました。現在のテレビCMの字幕付与率が0.3%に過ぎないとお伝えすると、会場からは驚きの声が上がりました。

続いて、当プロジェクトで2019年行った「字幕付きCMに関するアンケート」※の分析結果を報告しました。字幕付きCMの現在の認知度や理解度、好感度、またどのようなCMに字幕が欲しいかなど、字幕付きCMに関する当事者たちの要望や現状をお話しました。

最後に、安倍晋三首相や各知事のコロナ禍に関する記者会見での情報保障の充実度や課題などを報告しました。

また、各省庁からの出席者に、自省庁が放送するテレビCMにも字幕があるかどうか確認もお願いしました。

※「字幕付きCMに関するアンケート」の分析結果を掲載したNewsletter2019年10月号は[こちら](#)をご覧ください。



これまでの活動を報告する松森副主査

なぜ字幕付きCMが普及しないのか

続いて、JAAの小出誠常務理事より「字幕付きCMの普及に向けて～課題と解決の方向～」と題し、字幕付きCMが普及しない理由について最新情報を交えた詳しい報告がありました。

まず、普及しない原因は広告主と放送局双方にあるとし、広告主においては、必要性の認識がまだまだ低いこと、コストアップの心配や具体的手順が分からないことから、導入を躊躇していること説明がありました。

放送局においては、直前のCM字幕が次のCMに被るなど放送事故の心配や、ローカル局の字幕設備の未整備などが普及を阻害している要因として挙げられました。



報告するJAAの小出常務理事

さらに、それらの要因については JAA と日本民間放送連盟で随時解決に向けて、具体的に取り組んでいると述べました。

最後に、字幕付きCMは経済産業省や厚生労働省、文部科学省など様々な省庁に関係する重要案件であり、字幕付き CM の必要性の認識向上はぜひ総務省から後押しいただきたい、との話がありました。

字幕付き CM の現状と課題を認識

報告の後は、出席者間での意見交換を行いました。

「実際に音のないCMを見て、字幕の重要性を感じた」「テレビCMの字幕付与率がそんなに低いとは知らなかった」「公的な情報を流すCMに字幕がないのは気が付かなかった」「CM字幕に関しては、まだまだ課題が多いと感じた」など、率直な感想が多く上がりました。

省庁の方々に字幕付きCMの現状を伝え、まだ課題が多いことを認識していただく、という当初の目標は達成できたと感じました。



出席者から率直な感想が多数上がった

今後も IAUD と JAA が協力して国にアピール

当プロジェクトでは、これまで字幕付きCM普及活動に関しては単独での取り組みがほとんどでした。

しかし、今回の勉強会出席に向けては、早い段階から JAA と協力して進め方を検討し、用意した資料もお互いの視点で確認しており、IAUD と JAA が協力して国にアピールすることができました。この勉強会のおかげで活動の幅が大きく広がったことが一番の収穫です。

当プロジェクトはこれからも JAA と定期的に合同ミーティングを行い、字幕付きCM普及活動の進め方を話し合っていきます。

また、各省庁の主要な方々に直接説明する機会を得られたことは、今後の普及活動に大きなプラスになると感じました。

この機会を作ってくださった竹中氏と吉井氏に感謝いたします。



JAA のみなさん、竹中氏、吉井氏と集合写真

CM 字幕アンケート 2020 実施中

当 PJ は今後の活動の参考にするために、2020 年度も字幕付 CM や動画、メディア接触状況など商品情報入手に関するアンケート調査を IAUD の公式サイト上で実施しています。ぜひ皆さまのご協力をお願いします。

CM 字幕アンケート 2020 は[こちら](#)をご覧ください。

CM字幕に関するアンケート

IAUDの業務の促進プロジェクトではCM字幕普及の取り組みを行っています。活動の参考とするため、以下のCM字幕に関するアンケートにご協力ください。全部で10問あります。5分程度で終わります。

(1) 性別は？

女性

男性

その他

(2) 年齢は？

10代

20代

30代

40代



革新的な UD 活動を国際的に表彰

IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介⑥

IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介の第 6 回目は、UX デザイン部門金賞を受賞した富士通(株)／富士通デザイン(株)／(株)JTB／全日本空輸(株)／川崎フロンターレ／公益社団法人日本プロサッカーリーグ／川崎市の「サッカー&ユニバーサルツーリズム～発達障害のある子どもたちのサッカー応援ツアー」です。

ロジャー・コールマン審査委員長(英国王立芸術大学院名誉教授)は「サッカー&ユニバーサルツーリズム～発達障害のある子どもたちのサッカー応援ツアー」について、「知覚過敏や発達障害などの問題に焦点を当て、障害への理解を高め受け入れるための注目すべき戦略。企業の社会的責任に対する抜本的で創造的なアプローチの価値を示している」と評価しました。

今号の Newsletter では、「サッカー&ユニバーサルツーリズム～発達障害のある子どもたちのサッカー応援ツアー」の取り組みを富士通(株)の境 薫氏に紹介していただきます。



IAUD 国際デザイン賞 2019 表彰式／プレゼンテーションの様子(2019 年 12 月、東京・赤坂)

※IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞結果は[こちら](#)をご覧ください。

IAUD 国際デザイン賞 2019 審査講評は[こちら](#)をご覧ください。

※「IAUD 国際デザイン賞 2019 表彰式・プレゼンテーション」開催報告は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介①は[こちら](#)をご覧ください。

IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介②は[こちら](#)をご覧ください。

IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介③は[こちら](#)をご覧ください。

IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介④は[こちら](#)をご覧ください。

IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介⑤は[こちら](#)をご覧ください。



共生社会の実現へ向けた障害理解の促進へ

IAUD 国際デザイン賞 2019 金賞:「サッカー&ユニバーサルツーリズム
～発達障害のある子どもたちのサッカー応援ツアー」

富士通(株)／富士通デザイン(株)／(株)JTB／全日本空輸(株)／川崎フロンターレ／
公益社団法人日本プロサッカーリーグ／川崎市



J1リーグ「川崎フロンターレ対大分トリニータ戦」を応援する子どもたち

発達障害児の成功体験拡大と障害理解促進を目指して

富士通(株)／富士通デザイン(株)／(株)JTB／全日本空輸(株)／川崎フロンターレ／公益社団法人日本プロサッカーリーグ／川崎市の7団体は、発達障害への理解を促進するために、発達障害児とその家族を対象としたJリーグ観戦とサッカー教室を行うツアー「サッカー×ユニバーサルツーリズム」を実施しました。

発達障害は近年、広く知られるようになってきた障害の一つです。脳の機能に原因があるといわれており、日本国内で発達障害と診断された人は48万人といわれています。

発達障害は見た目にはわかりにくく、具体的な困りごとについては必ずしも世の中の認知度が高くないため、本人とその家族が日常において周囲から特別視されたり、躰がなっていないと誤解されることも多く、外出をためらうケースが見受けられます。

また、発達障害児者の多くは感覚過敏を患っていますが、感覚特性は他者が理解しづらいため、集団生活や活動への参加の障壁は高くなっています。特に、スポーツについては楽しむ前に諦めてしまっている子どもも多いといわれています。

そこで、多くの人に愛されるスポーツであるサッカーを基軸に、上記の7団体が連携して「発達障害児を対象としたサッカー×ユニバーサルツーリズム」を実施し、発達障害児の成功体験拡大と、共生社会の実現へ向けた障害理解促進を目指しました。

3つの視点でツアーを計画

このツアーはスポーツとツーリズムを中心に、以下3つの視点をもって計画しました。

(1)「障害を知る」

共生社会の実現には、周囲の適切な理解と配慮が必要です。活動に関わるスタッフと社会に向けて広く発達障害への理解を認知してもらうため、映像を用いた障害体験とこころのバリアフリー教育を事前に実施しました。

(2)「移動する」

発達障害があると感覚特性や認知特性のため、慣れない交通機関等による移動に大きな困難が伴うことがあります。

そこで、困難が多いとされる飛行機搭乗やバスでの移動、スタジアム内での移動の安心を高める工夫を行いました。

(3)「スポーツを楽しむ」

発達障害があると感覚過敏など感覚特性のため、スポーツが好きであっても、光や音の刺激が多いスタジアムでの観戦は困難が伴うことがあります。

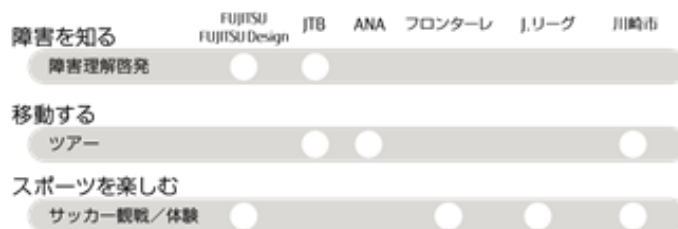
また、言葉だけで表現された抽象度の高い情報の理解が苦手であったり、別々の動作を1つにまとめる協調運動が不得手な場合も多く、スポーツをする際に消極的になり、自己肯定感が下がってしまうことが見られます。

そこで、スタジアムでのサッカー観戦、そして自らのサッカー練習に安心して取り組める機会を提供しました。

4 企業 2 団体 1 市が役割分担して連携

このツアーは、活動趣旨に賛同した4企業2団体1市の7団体が、組織の枠を超えて共生社会の必要性を強く意識し、連携することで実現しました。

右図のように各団体がそれぞれの得意分野を活かした役割を担い、工夫を凝らした活動を展開しました。



各団体の主な役割

安心できる移動

このツアーは2019年7月27日(土)と28日(日)の2日間行われ、神奈川県川崎市及び大分県大分市の発達障害児及びその家族22組が参加しました。

初日は等々力陸上競技場でJ1リーグ「川崎フロンターレ対大分トリニータ戦」を観戦し、2日目は川崎フロンターレ麻生グラウンドでのサッカー教室に参加しました。

大分県から参加した4組の家族は飛行機で大分空港から羽田空港へ移動し、その後専用バスで競技場及び宿泊先へ移動しました。



羽田空港到着時の様子

川崎市からの参加者は市内の集合・解散場所と競技場間を専用バスで移動しました。

各移動には発達障害に関する事前教育を受けたスタッフが同行し、配慮されたアテンドで心理的にも安心を確保しました。

更に、移動中にはスケジュールや行先の施設情報を適宜視覚化し、安心できる移動体験を実現しました。

※JTB、ANA を中心に実施



専用バスで移動

Jリーグ初のセンサリールームで観戦

J1リーグ「川崎フロンターレ対大分トリニータ戦」が開催された等々力競技場では、人混みや光、大音量を苦手とする発達障害児の特性を考慮し、音と光の刺激が一定量遮断されるセンサリールームをスタジアム内に設置して、安心できる環境でのサッカー観戦を実現しました。

さらに、センサリールーム内には感覚刺激を与え最適なリラクゼーションを提供するスヌーズレン機器を備えたスペースも用意し、参加者が自由にカムダウン・クールダウンできるよう配慮しました。

このセンサリールーム設置は、J1リーグ戦では国内初の取り組みとなりました。

また、スタジアム内大型映像装置には選手名をひらがなで表記したり、各クラブサポーターからのウェルカムフラッグ掲示など、スタジアム一体となったサッカー観戦を実現することができました。

※川崎市、川崎フロンターレ、Jリーグを中心に実施



安心して観戦できるセンサリールーム



ひらがなで選手名を表示

スポーツの楽しさも体感

ツアー2日目には川崎フロンターレ麻生グラウンドで、川崎フロンターレコーチ陣によるサッカー教室を開催しました。

コーチ陣にはあらかじめ発達障害に関する研修を提供することで、発達障害児に分かりやすい指導が実現しました。

※川崎フロンターレ、Jリーグを中心に実施



発達障害に理解あるコーチによるサッカー教室

地域社会に向けても障害理解促進

ツアー実施に当たり、発達障害児の見え方や感じ方を体験して、どの様に接するのが良いか具体的な方法を学べる発達障害体験 VR 映像を制作しました。

そして、スタッフを対象に事前に実施した「こころのバリアフリー研修」で活用し、発達障害児への適切な理解と配慮を実現しました。

さらに、サッカー観戦当日にはスタジアムで、一般来場者にも発達障害体験 VR 映像の視聴体験会を実施し、地域社会に向けて障害理解への促進を行いました。

※富士通及び富士通デザイン、JTB を中心に実施



発達障害体験 VR 映像での図工の授業シーン

情報の視覚化とコミュニケーション支援

曖昧な状況を苦手とする発達障害児の特性を考慮して、スケジュールを写真等で視覚化したツアー事前学習冊子を作成・配布し、あらかじめ読んでいただくことで初めての場所と体験に安心して参加できるようにしました。

また、言語による感情表出が苦手である特性を支援するため、コミュニケーション支援ツールを用意し、楽しかったサッカー観戦やサッカー教室を自ら記録して、参加者同士や家族と共有できるようにしました。

※富士通デザイン、JTB を中心に実施



わかりやすく予定を記載したツアー事前学習冊子

今後も連携して活動継続へ

ツアーに参加した子どもたちは、はじめは緊張気味でしたがサッカー観戦では笑顔がはじけ、翌日のサッカー教室では積極的に取り組む姿も見られました。

初めてサッカーに関わることができ、新たな経験が一つ増えた子どもも多く、参加した家族からも「子どもの新たな一面が花開いた感じがする」という感想をいただきました。

一見して伝わりにくい発達障害に焦点を当て、複数団体が組織の枠を超えて取り組み、多くの人に愛されるスポーツを基軸にツーリズムを掛け合わせ、旅行やサッカー観戦、人々との交流を通じた発達障害児の成功体験拡大と、共生社会の実現へ向けた障害理解促進を実現できました。

このような取り組みが特別なものではなく、当然のこととして行われる社会を目指し、さらに関係者間の連携を強めて活動を継続していきたいと考えています。

※「サッカー&ユニバーサルツーリズム ～発達障害のある子どもたちのサッカー応援ツアー」詳細は[こちら](#)をご覧ください。



IAUD 2020年8月の予定

月	火	水	木	金	土	日
3	4	5	6	7 14:00~ CM 字幕 PJ オンライン会合	1/8	2/9
10 山の日	11	12	13 IAUD 事務局	14 夏季休業	15	16
17 13:00~ UD+PJ オンライン会合	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

IAUD 事務局は 8 月 13 日(木)と 8 月 14 日(金)は夏季休業となります。

※新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく緊急事態宣言を受け、IAUD では研究部会等の行事開催を一部見合わせております。

次号は 9 月上旬発行予定

特集:IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介⑦ほか

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会
事務局:〒225-0003 横浜市青葉区新石川 2-13-18-110
電話:045-901-8420 FAX:045-901-8417 e-mail:info@iaud.net